

令和七年七月号

《第百五十一号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

ふみづき
文月の祭典・行事案内



【月次祭】 九時半より

十一日（金）

二十三日（水）

【崇敬会役員会】

五日（土） 十時

【昭和天皇御製】（第一二四代）

「洞爺丸の惨事」

その知らせ悲しく聞きてわざはひを
ふせぐその道疾くところ祈れ

「伊豆西海岸堂ヶ島にて」

たらちねの母の好みしつはぶきはこの海
の辺に花咲き匂ふ

（昭和二十九年）

【六三回神宮式年遷宮に向けて】二

この六月九日に皇大神宮（内宮）で、十日
には豊受大神宮（外宮）において、それぞれ
「御樋代木奉曳式」が斎行されました。

この御樋代木は遷宮において、御神体を納め
る器の材料となります。



鈴川清流で川曳され
ました。

外宮には十日に御
樋代木が到着し、渡
会橋で「御木曳車」
に積み替へられ、外
宮北御門橋まで陸曳
が行はれました。
全行程が無事に行は
れたこと誠に有難く
お祝い申し上げる次
第です。



その御樋代木は長野県
木曾郡上松町と岐阜県
中津川市のそれぞれの
御杣山で奉伐され六月
三日と五日に、長野・
岐阜・愛知・三重の各
県で盛大に奉送迎を受
け、伊勢まで奉搬車ト
ラックで運ばれまし
た。そして、九日に内
宮に向け三本の御樋代
木が宇治橋下流の五十

【夏越の大祓祭】

（式次第）

一 修祓

一 宮司一拜

一 「大祓詞」奏上

一 一切麻祓の儀

一 献饌

一 祭詞奏上

一 参列者拜礼・撒饌

一 御神酒拜戴・茅輪授与

六月三十日午後三時より

上記の次第にて
当社拜殿にて齋
行します。できれ
ば事前に社務所
にて「人形」を受
け、記名されてご
持参ください。

【推薦図書】

『オオカミは大神』

二二〇〇円

（狼像をめぐる旅）

青柳健二著 イカロス出版

本書の目次を紹介すると、

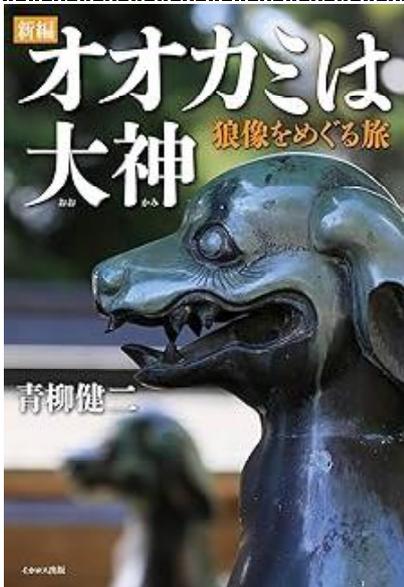
I オオカミとの出会い

II 狼像の聖地へ

III 大神への祈り

新編特別附録 狼像鑑賞術

となっている。日本狼には、エゾオオカミ



とニホンオオカミの二種が明治の御代には



人型（ひとがた）
には、中央に氏名
をその横に生年月
日を記入ください。
玄関等にお祈り
する茅の輪を授与
します。

棲息し、益獣として人々とともに生活をしてきた。なぜ明治時代に絶滅してしまったのか。しかし、狼への信仰は現在においても残り続けてゐる。この日本のオオカミ信仰と狼の絶滅までの歴史を生き活きと描いており、とても興味も生き続けてをれば、今や害獣扱ひされてゐる日本鹿や猪等も害獣とはならなつたと思ひ残念でならない。



本居宣長の

『直毘靈』を読む(四)

神代も今も隔てなく、ただ天津日嗣の然坐しますのみならず、臣・連・八十伴の緒に至るまで、氏・姓を重みして、子孫の八十続き、その家々の職業を承け継がひつつ、祖神たちに異ならず。只一世の如くにして、神代のままに奉仕れり。

【現代語訳】

神代も今も差がなく、ただ天の後継者としての天皇だけがそうでいらつしやるだけでなく、臣・連・八十伴の緒(多くの部民)に至るまで、氏と姓とを重んじて、子孫の多くの後継者はその家その家の職業を受け継

ぎ受け継ぎして、先祖の神々と違いがない。只生きてゐる一世代のようにあつて、神代のとおりにお仕え申しあげてゐるのです。(続く)

本居宣長(もとおり)のりながの紹介(三)

宣長には様々な逸話が言ひ伝へられてゐますが、其の中でも「松坂の一夜」が良く知られてゐます。当時国学者で名を馳せてゐたのは江戸在住の賀茂真淵でした。その真淵が伊勢参りに松坂に一泊することを知つた宣長は、その宿屋を訪ねて門人となるのです。その時、真淵は「私は古事記を研究したいが、年をとりすぎてゐる。万葉集の研究はしたが、それは古事記を知るためである。君には是非とも古事記を研究して貰ひたいと思ふ。」とよつて、宣長はおよそ四十年にわたり古事記の研究を重ね、『古事記伝』を書き上げたのでした。(続く)



『古事記伝』版本

【日露戦争戦勝一二〇年】

今年(一九〇五年)は日露戦争終結から一二〇年の節目の年にあたります。明治三十八年(一九〇五年)五月二十七日、日本海海戦においてバルチック艦隊を撃滅し、六月にはアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領が日露に対し講話を勧告し、八月にはアメリカのポーツマスにおいて講話会議が始まりました。そして、九月にポーツマス条約が調印されました。

このニュースは全世界を驚愕させました。アジアの黄色人種の新興国が白人国の大口に勝れたことは、欧米列強の植民地支配に苦しむ人々に独立への夢と希望を与えました。エジプトの民族運動の指導者であったムスタール・カミールは「日本人こそは、ヨーロッパに身のほどをわきまえさせた唯一の東洋人である」と述べてゐます。当然に植民地国では独立運動が起りました。

明治天皇が日露の開戦にあたりお詠みになられた御製を紹介します。

四方の海みなはらからとおもふ世に
など波風のたちさわぐらむ

この明治天皇の御製は、昭和十六年九月の日米開戦の是非を問ふ御前会議において、昭和天皇がお読みあげにられました。



上の写真は日本海海戦の旗艦である三笠艦上の写真です。